

アラ環女子、中国へ。 その二



いもねえさん

転落した！

マカオでの出来事。

今日は別行動にしようね、と息子がシャワーを浴びている間にホテルを出た。

疲れて2時半ごろホテルにもどったら、30分後に息子が帰って来た。

これからの行動としては一

マカオの街が一望できる丘の上の灯台、アイスクリーム屋、マカオ料理の店で夕食はどう？

息子が言った。

夕方、歩き始めた。

けっこうしんどくなってきた。

たいした山でもないんだろうけれど。休み休み。

もうダウンだ。動悸もひどい。

ちょっと休むわ。

いつもなら動悸はおさまるのだけれどおさまらない。

さあ、あとは下りだしゆっくり行こう。

そうだね。

息子が先に石段を降りた。

何が起こったのかわからなかった。

宙を飛んでるのはわかった。

地面にころがっていた。頭は打たなかった。

息子はドサドサッという音がして、見たら私が倒れていて、ヤバイ！と瞬間思ったという。

石段に座らせてくれた。

受身とった？わからない、どうなったのかも。

両膝と右腕、左足首が痛かったけど、歩けたのでレストランへ。

レストランを出たら歩けなかった。少ししたら何とか歩けた。

ホテルではタオルをぬらし冷凍室に入れてガチガチタオルを作って、着の身着のままの姿で、枕を重ねて足を挙げ、一晩中冷やした。アイシングだ。

これぐらいの知識は、看護師だもん。

骨折はないと判断した。

買った活絡油もつけて。息子は、終わったな、全治6ヶ月、とかなんとか言っている。

夜中、トイレに立つにも足をつくことは全くできなかった。

まずいなあ。。。明日は香港への移動日だ。

どうしよう。。。一晩中痛みと不安で眠れなかった。

翌朝、ドキドキしながら足をついてみた。

何とかいけそうだ。スーツケースを杖代わりに。

ホテル前からフェリーターミナルまで無料バスが出ていたのでそれに乗る。

息子が荷物を持ってくれた。

大変お世話になりました。ありがとう。

ころんじゃいけない、とあれほど思っていたのに。。。。

これだけですんで良かった。

骨折したらその後の人生は変わるんだからと、もう一度自分に言い聞かせる。

できる限り自立して生きていくために。

母はもう若くはないと悟った息子は、以来私をバアサンと呼ぶ。

それにしてもアイホンだらけ。

地下鉄の中、列車の中、バスの中、どこでも大声でケータイでしゃべっている。

ヤイ、から始まる。

もともと声が大きいのに大声でケータイ。

ガイドさんの説明の声よりも大きい。

いったい何事かあったのかと思うくらい。

しかも、そのほとんどがアイホン。

すごい普及だねー。

にぎやか、とっても。

何をしゃべってるのかチンパンカンパンだからそんなに気にはならないけど。

いったい何をそんなにしゃべることがあるんだろう、大人が。

全部通訳してもらったら面白いかもね。

私はチャイニーズとは見られない

日本人と中国人はよく似ている。

私の近くに中国の人がいるけれど、普通に話すし言われるまで知らなかった。

ただ、中国へ行っての私は中国語で話しかけられない。

60歳を過ぎてお化粧をしている人はほとんど見なかった。

もっとも若い人も、素顔の人が多かった。

あなたは中国人にはみられないよ、化粧してるから、と息子。

化粧というほどじゃないけれど口紅ぐらいつけるでしょ、普通。

オシャレとは無縁に近いね、オバサンは。

ユニクロがあった。日本と値段は同じだから、中国の人にとっては高価なものだ。

でも人はいっぱい入っているし、試着室も並んでたよ、と。

桂林は客引き、物売り多いよー

桂林のホテル、リヤカーのような三輪車に乗ってください、とホテルを出たとたんに。無視することとガイドブックには書いてあるものの、つきまとう感じ。

こういうの苦手。

それでも無視をきめこんでひたすら歩くに限る。

トラブルのモトだそうだ。

言葉が通じないしね。

手作りのなにやらも持って来る、さわらないに限る。

どうも、、桂林は素朴なのだけれど、入園料なんかもガイドブックに掲載されてる倍の値段だし。。。

七星公園も入園料はガイドブックの倍だった。

七星公園の中の長さ1キロメートルの鍾乳洞。中国語のガイドつきでグループで見て歩くのだけれど、

所々でお店があったり写真を撮ってお金をとったり、、、

少し広い場所でヤオ族の女性が出てきた。

民族衣装を着て、ヤオ族の女性は一生に一度しか髪を切らない、その切った髪を合わせて髪を結う、その結び上げ方を見せてくれた。それはとっても興味深く見た。

首にリングをはめて首を長くしている女性も登場した。

お金を入れて下さい、と箱を置いていた。

何だかなー。少数民族を見世物にするのはなーと息子。。。

鍾乳洞の中は、ピンクやら緑色やらブルーでライトアップ、ディズニーランドみたい。

何もなくてもいいのに。。。自然のままを見せてほしいなあ。。。

しかし1キロメートルも続く自然が生んだ鍾乳洞は見ごたえがあった。

桂林から梯田（たなだ）へ行く途中、トイレ休憩のため民族展示場のような所に寄った。

ヤオ族の女性がたくさんいて、車に押し寄せてきて、帽子やら札入れやら写真本やらを差し出す。

車の中に身体を半分突っ込んで売ろうとする。乗り込んでくるんじゃないかと思うぐらいの勢い！

少数民族を、、、という気持ちはなくなる。

素朴に生きてきたのだろうに、、、

現金収入の道を知ったのか。

キレイに刺繍された札入れを手にとってみる気持ちにもなれなかった。

り（サンズイに離）江下りの際に、通訳のヤンさんが物売りが船に接近してくることがありますが、トラブルのモトなので無視したほうがいいです、船が着く陽朔（ようさく）の街はスリが多いのでバックは前にしよって下さい、と。

画像は船に接近してきた物売りの船。

しばらく船から離れず、コバンザメのようにくっついていた。



中国広いよ、同じ国とは思えない。

中国といっても広いよ～

万里の長城を思い浮かべたり、孟子、孔子、私は小学校の学芸会でにチャイナ服を着てクーニャンを踊った。

毛沢東、毎晩報道されていた血だらけの天安門事件、横浜の中華街、中華料理を教えてくれるウーウェンさん、

息子が好きな三国志、水墨画の世界、、、北京オリンピック、、四川大地震、、

何もかもが点であり、つながらなかった。

芥川賞を受賞した楊逸さんの「時が滲む朝」を読んで天安門事件の頃の中国を想像した。少しだけ何かが膨れたというか、いや何もわかっていない。

今回の旅行から帰って、どうも気になり、楊逸さんの「金魚生活」を読んで、これは、うん納得、そういうことだったんだ、と。

図書館にある限りの楊逸さんの本を読みたい。

私たちはどこのことを中国といってるんだろうね。

そして、あの巨大な中国の人々は日本のことも日本人も知らないんだろうね。

ほおる、ほおる、、、違和感あるね。

ビックリしたー！

最初の広州での入国で、審査官がパスポートをほおったのだ。

ほおるというか、トランプのカードをすべらせるというか、、、

こんな大切なパスポート、何か私悪いことしたのかなぁ、こんな扱いされるなんて。

雑というか何と言うか、食べ物屋さんでも椅子は足でなおすし、メニューはパタンとほおってよこす。

会計のシートも机に投げる。（私から見たらね、決して置くのではない）

品物はガチャンと置く。

食べた後の食器はコンテナみたいなものを持ってきてガチャガチャとほおる。

食器こわれないのかなー。

ほら欠けてるよ、気にしないんじゃない？たしかに欠けた器も平気らしい。

植物公園の中の高級な中華の店だったけどね。

日本人の私には、怒られてるみたいに感じるのだ。

これは多くのところで見た光景だったけど最後まで慣れることはなかった。

香港入国の時、隣の女性はパスポートをほおっていた。

そうか、そうなんだ、お互いほおるんだ。

だから窓口のところは凹んでるんだー。

その凹みに投げ入れろってことなのね。

日本に入国の時、審査官は次の方どうぞ、と言った。

さらに「お待たせしました」と両手でパスポートを渡してくれた。

すごくすごく嬉しかった。日本だ、と思った。

笑顔を見せない

私は中国への入国の時から感じていた。

笑顔を見せない。

怒っているのだろうか、日本人を嫌っているのだろうか。

仏頂面なのだ。

何で怒ってるんだろうね。

私は無表情とか仏頂面はすごく苦手。

すぐに私、悪いことしたのかなの態勢にはいってしまう。

スイマセン、ごめんなさい、と、すぐに口に出す性格なのだ。

そのことを息子に話すと、そうでもないんじゃない、と言っていたが。。。

その息子もついに言った。1日中あんなつまんなさそうな顔して物を売って楽しいのだろうか、と。

他の国から見たら日本人もそうなのかなー

スタバにいるのは外国人

スタバやケンタッキー、マックは大きな街にはどこにでもあった。
でも、中にいるのは外国人がほとんど。

値段は日本と同じだから中国ではとっても高く感じる。
でも静かに落ち着きたい時には、スタバはいい。

そしてスタバでトイレをすませておくのがいい。
きれいだしトイレトペーパーもあるし。

普段は感じなくてもこれは大きなことだ。

り江下りの圧巻！

桂林でどうしても見たかった。

り江下りで、山水画の世界を見たかった。



これはツアーに参加するしか方法がなさそうなので、日本語通訳も頼んで申し込んだ。

日本人は私たちだけだった。

まさに山水画の世界が延々と続いた。







通訳のヤンさんは水がキレイとさかんに言っていたけれど、八丈島に暮らす私には濁った土色の水がキレイとは思えなかったんだなあ。。。。

でもそこで洗濯や洗い物をしていたのでキレイなのかな。岸边に暮らす人たちは自給自足の生活だということだった。



画像を見るのが一番ですね。

船室に入る気にはなれなくて、最上階のデッキで大自然を堪能した。

サントリーのウーロン茶のコマーシャルはこの画像ですよ、と。



トイレットペーパー、ティッシュは持参することね、コーヒーもね。

トイレットペーパーはどこのトイレにも置いてないということは知っていた。
でも前回のマレーシアでは、持ち歩いたもののほとんど使わなかった。かさばるし。

なんかヘン。

ホテルのトイレットペーパーすぐなくなるよね。

そうだねー、小さいし、巻きも少ないねー。

ホテルに予備なんて置いてないし、すぐなくなる。

さらにトイレットペーパーは、トイレに流してはいけないらしい。

そばの箱に入れる。

まあ、いろんな紙を使えばトイレは詰まるよね。

でも使った紙を箱に入れるって抵抗あるねー。

ねえ、あと2メートルぐらいしかないよ。

少しずつ使おう。

結局フロントにもらいに行った。

ホテルにティッシュは置いてない。

風邪で鼻をかむ息子。私の持参したポケットティッシュはもうなくなる。

店でさんざん探し、それらしきものを買って帰ったが、それは食事用のナプキンだった。

これでいいよ丈夫だし。

1枚ずつたたみ直して、ティッシュケースに入れた。

まあ丈夫な紙で重宝した。

見た？

見た。ああやって鼻をかむんだね。

ゴミ箱に向かって鼻をつまんでチーンと鼻水を出す、ハンカチであとをぬぐう、、、、

最後に泊まった広州空港ホテルには、ティッシュペーパーが置いてあった。

さすがお茶の国。

コーヒーを飲むとしたらスタバぐらいかなー。

桂林のホテルは朝バイキングだったけれどコーヒーはグラグラ煮え立っていた。

これは飲む気にならなかった。

そういえば広州のホテルもコーヒーは煮え立っていたな一。

あんまり飲まないのだ、と判断した。

部屋にはお茶のパックは置いてあるけれどコーヒー、紅茶はない。

店で買おうと思ったが、ビンしかない。

スタバは人がいっぱい、スタバのインスタントコーヒーを買うことに。

あなた、このインスタントコーヒー、1本100円につくよ、高一ッ、と息子は言ったが買った。

砂糖入り？老眼鏡をかけないと見えないので息子に聞いた。

いや、入ってない。

近くに置いてあった砂糖を少しもらって帰った。

なんと図々しいオバサンだな一、あなたは。

じゃあ、砂糖いらないの？いりますよ一。

ホテルの部屋で飲んだ。息子もちゃっかり砂糖を入れて飲んでいる。

あ一、こんなのだったらブルックスのコーヒーパック持ってくるんだったな一。

国内だったら、いつもブルックスのコーヒーを3袋ぐらいもって行って、東横インで飲むんだけどな一。

水、水、水！

水！

水は買うのだ。

お店に入って水が出てきたところはなかった。

水は買う。だから1滴とて貴重。

よく買ったなあ。。。。

連泊のホテルでは大きなボトルを買って小分けして持ち歩いた。

水の値段もマチマチ。

冷えてるのだと値段が倍とかもあった。

薬を飲むにも水は必要だし。

お店の品物が辛い時も水が欲しい。

広州空港での荷物検査の前にペットボトルを処分する箱が置いてあった。

液体は持ち込み量が決まっているからね。

その箱を覗き込んで持ち去る人がいる。

ホテルで満杯に詰め替えた水、結局飲まなくてその箱に入れたが、すぐに持ち去られた。

成田空港に到着し歩いていたら水を飲むような場所があった。

そこでガイジンさんがペットボトルに水を入れていた。

成田で息子と食事をした。天ぷらが食べたいということになった。

お茶が出てきた。水を下さいと言えば水をくれるだろう。

食べている途中にもお茶のつぎ足しに来てくれた。

これが日本なんだ、と。

日本では50年以上前、私が小学生の頃、水道の蛇口に口をつけて水をガブガブ飲んでいて記憶がある。

日本、すごいね。

家に着いて、洗濯をした。

あー、飲み水で洗濯かーこんな貴重品なのに。もったいないなー。

こんな国は地球上では少ないのだ、とあらためて思う。

人民元、香港ドル、通貨が違う

今回、息子は私にサイフを預けなかった。
それは通貨があまりにも違うからだろうね。

今回行った広東省、広西チワン族自治区では人民元。マカオ特別行政区ではマカオパカタ、香港行政区では香港ドル。マカオや香港には通貨を交換する場所がたくさんあった。交換して違う紙幣やコインが出てく旅に、へ～と見たものの、息子は私には渡さなかった。行き違いになった時にためにタクシー代だけを渡してくれていた。きっと私が混乱することをおそれたのだろう。

こういう光景は日本にはない。日本中、円だけだもの。

日本に戻ってきてから、小銭が多くてサイフが重いので銀行でジャラーッと小銭を入金した。チリンと1枚もどってきた。なぜかマカオパカタ。多分20円ぐらいだね。

お米がなー

どうしてお米がこんなにおいしくないのだろう。
だからお粥にするのかなー。

日本人の私の口に合わないだけ？

パサパサ。タイ米みたいに米が長いところもあった。
仏さんのご飯のように小さい器に大盛り。ほろっとこぼれる。

広州のファミリーマートでおむすびを買ってみた。
ちがうわ、日本のとでは。

飛行機でのツアー客は炊飯ジャーを買って帰る人を多くみた。
炊き方？お米？

あんな立派な地下鉄や高速道路を作るんだから炊飯ジャーを日本から買って帰ることはないんだ
ろうに。。。
そして今又土鍋で炊いたりすることもブームなのに。

飛行機でのツアー客は中国では富裕層だ。
炊き方を知らないのか、お米が違うのか、炊飯ジャーを売っていないのか。

日本のお米がいかにおいしいか、いや口にあってるというべきかな。
お米は中国の主食ではないもんね。

お茶好きなのね

コンビニで水を買おうとしたが、緑茶と書いてあって緑色のペットボトルだったのでそれを買った。

甘い！よく見ないで買ってしまった。

どうやらグリーンティーということのようだった。

お茶としてのペットボトルは売っていないんだ。

しかもこの緑茶、グリーンティーじゃなく砂糖水に近かった。

ボトルを2つ持っている人がいる。

片方にはお湯が入っていて、もう片方の底にはお茶っ葉がはいっているのだ。

お湯を入れてゴクゴク飲んでいる。

桂林の空港ではトイレのそばにお湯が出る場所がある。水はない。

次々に来てはボトルにお湯を入れている。空港で働いている人らしい。

変わってるよねー、日本にはないよね、こんな所でお湯をもらってもねー、、、

お湯を入れる物を持っていることが前提だな、アレは。

日本語通訳のヤンさんがいる時に聞いてみた。

あの入れ物の底の方には、どんなお茶が入っているんですか？

さあ、それは専門家に聞きましょう、、、と言われた。通じなかったのかな。

交通整理の公安の人が、交差点の横で、ポットのお湯を別の入れ物に注いでいた。

仕事中でもお茶は欠かせないんだー。

しかしよく飲む。お茶好きなんだね。